

1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども
- 自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども
- たがいに協力し、進んで実行する子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校 ○豊かな人間性をはぐくむ学校 ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校 ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動し責任をとることができる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

コロナ感染防止策を徹底しながら、児童の不安感の払拭等、心のケアに努めている。また、児童の学びを保障するために最大限の努力をしている。

【令和元年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

○数値目標 平成31年4月区学習定着度調査 区平均通過率 80.6%

○実施結果 平成31年4月区学習定着度調査 花保小通過率 84.3% (令和元年度)

目標数値を上回ることができた。8年連続平均通過率を向上させ、5年連続区の平均通過率を上回った。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを実施してきたことの相乗効果である。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

保育園・幼稚園との連携

- ・連携保育園で、「鉛筆の持ち方」「姿勢保持」「学校生活の流れ」等の指導を小学校の教員が行い、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保育園保護者会で校長が講話を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。職員交流研修は新たに私立幼稚園とも実施することができた。
- ・幼保小連携ブロック代表校として、ブロック全体の幼保小連携を推進できた。
- ・小学校での給食体験、図書室での読書体験、水泳指導や音楽会の見学、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成23年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し大きく授業改善

されている。ただ、中学校の2、3年生の区学力定着度調査での成果が表れていないことが課題である。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

2年間教科研究を休止し、「リーダー・イン・ミー」に特化して研究を行ってきた。しかし、それまでに研究を深めてきた「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開、「国語」では、言語活動の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度もOJTも含めて継続していく。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		H30	H31(R1)	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力向上	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実	○	○	○	○	○
4	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
足立区平均通過率と同水準を達成する。	足立区学力定着度調査 目標通過率 区平均数値 令和3年2月実施 到達度確認テスト 通過率 82%	区学力調査81.7%と通過率の数値目標及び区平均通過率80.9%を超え、目標を達成した。6年連続で区の平均通過率を上回った。	区平均通過率を上回ると同時に、本校の学力向上の成果を、足立区立中学校全進学者の区学力調査の結果にも反映することができた。全教職員の努力の賜である。通過率 国語76.1% (足立区68.3%)、数学80% (足立区73%) 英語80.6% (足立区79.1%)	◎

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新	指導内容の精選と授業時間数の確保	全教科	6月から	教務主任、教科主任と学年間で連携し、指導内容の精選を行い、進行管理も徹底する。	全学年が、当該学年の課程を修了する。	9月末に、通常の学習進度に到達する。	授業時数を確保し、全学年の教育課程を修了できた。	・習熟する時間が昨年度より少なく、学力定着に課題が生じる可能性がある。	◎
2 改善	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週水 (漢字) 毎週木 (算数)	【指導者体制】担任 【取組みのねらい・目的】学習内容の復習・基礎学力の定着 【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習 ※開始時刻厳守(放送)	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上達成。	・低学年は特に100マス計算等の基礎基本を繰り返し行ったことで、定着が図れている。 ・応用問題への取り組みも必要である。 ・下位層は、個々のレベルに合った基礎基本問題に取り組みさせることが必要である。	○
3 改善	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語	毎週火 (読書)	【指導者体制】担任 【取組みのねらい・目的】読書に親しむ。読む力を伸ばす。 開始時刻厳守(放送)	保護者の学校評価における数値向上。	全校児童が本に親しむことにより、読書を身近に感じさせる。	語彙を増やし読書の楽しさを味わわせるために、物語本を選ばせた。語彙の増加が図れた。	・読書や読み聞かせを原則として週1回実施したことで、読書への興味関心が高まった。	○
4 継続	花保ステップタイム	全児童 国語 算数	毎週水 5校時	【指導者体制】担任・副担任の専科教員・学習支援員 【取組みのねらい・目的】学習内容の復習・基礎学力の定着 【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上を達成。既習漢字の定着が図れた。個々の算数のつまずきの解消が図れた。	・基礎基本を繰り返し行ったことで、定着が図れている。 ・応用問題への取り組みも必要である。 ・下位層は、個々のレベルに合った基礎基本問題に取り組みさせることが必要である。	○

5 継続	放課後学習	全学年 国語 算数	週1回	<p>【指導者体制】 担任 学習支援員</p> <p>【取組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力の定着が十分でない児童の個別指導を行う。</p> <p>【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習</p>	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	低学年はほぼ毎日、他の学年も週4日間実施できた。特に、つまずきのある児童への個別指導を主に、漢字検定の向けての練習や宿題にも取り組ませた。宿題の提出率も向上した。毎回のミニテストで正答率80%を達成した。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着のための貴重な時間であったが、1月の「非常事態宣言」の再発令による即時下校のため、効果的な個別指導を行う機会が少なくなった。 ・対象児童への指導は、個別に家庭学習で継続的に行っていく必要がある。 	○
6 継続	放課後補習	全学年 国語・算数 学力調査 正答率30%以下の児童	個人面談実施可能時	<p>【指導者体制】 管理職・算数少人数・専科 教員・学習支援員・ボランティアなど</p> <p>【取組みのねらい・目的】 個々に必要な課題を担当と相談し、プリントなどで補充指導する。</p> <p>【使用教材】国語・算数のプリント学習。</p>	プリントを担当に見せて、理解の状況を伝える。	個々の課題のプリントで正答率10ポイント改善。	予定通り5日間実施できた。個に応じた指導を重ねることで成果が出てきた。個々の課題のプリントで正答できる問題が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・補習の指導者と担任との連絡を密に行い、課題を明確にして指導できた。(期間中は連日実施のため、毎日打ち合わせを行った。) ・個人・三者面談期間中に児童12名に対して指導者3名で個別指導を実施した。 	○
7 改善	家庭学習	全児童 学年の取組状況により順次実施	毎日	<p>【指導者体制】 担任が共通取組と評価</p> <p>【取組みのねらい・目的】 児童に「家庭学習の手引き」を渡し家庭学習の仕方について指導する。また、保護者会で保護者にも「家庭学習の手引き」を渡し、説明して協力を依頼する。</p>	宿題提出状況を担任が記録。	宿題提出率90%目標	宿題はほぼ全員が提出している。	<ul style="list-style-type: none"> ・休業中、分散登校時の家庭学習には、課題があった。 ・自分で課題を見つけて学習に取り組む児童が増加した。 ・提出しない児童について、各家庭に協力をお願いしているが難しいことが多い。主に担任が休み時間や放課後等に取り組ませる中で学力定着を図っている。 	○

8 改善	そだち指導	対象児童	年2回	<p>【指導者体制】 育ち指導員2名</p> <p>【取組みのねらい・目的】 児童別の保護者授業参観と個人面談を実施する。授業の様子を知らせ、家庭学習について協力を依頼する。</p>	週案で確認。	実施し、保護者に理解を得る。	学力調査の再調査で20%以上の伸びを見せる児童もおり、授業中の態度にも変容が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象者の数値の向上によって、そだち指導の効果検証も図れた。 ・そだち指導員の熱心な指導の成果である。 	◎
9 新規	ICTの活用	全児童	毎日	<p>【指導者体制】 全教員</p> <p>【取組みのねらい・目的】 全教員がICTを活用した分かりやすい授業を推進する。</p>	週案や授業観察で確認。	ICTの授業内での活用率90%	全教員が毎日の授業で、有効に活用していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のために、これからもICTの有効活用を図っていく。 	○
10 継続	かけ算九九検定免許証制度	2学年以上の全児童	11月～2月	<p>【指導者体制】 検定者は、管理職・算数少人数担当者、指導は、担任と算数少人数担当者</p> <p>【取組みのねらい・目的】 学習の基礎となる九九を習得させるために100秒以内で暗唱させる。各学年2週間のうちに検定を受ける。ゴールド免許証は、1回での合格者に発行し、翌年度まで有効。普通免許証は、翌9月まで2ヶ月ごとにチェックし更新させ、完璧に覚えさせる。</p>	学力向上委員長と担任が連携して記録し、管理職に提出する。	全員合格。	<p>3年生以上のゴールド免許は、各学年、50%から60%であった。免許制度によって、ほぼ全員が普通免許を取得した。更新制度で完璧に覚えさせる。</p> <p>※2年生は2月の後半から検定を開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールド免許の取得率が高くないのは、完璧に習得していないからである。九九計算は活用できないと意味がない。普通免許の更新が2月の下旬にある。次年度のゴールド免許取得率向上に向けても努力する。 ・九九検定を実施したことで、乗法除法の誤答が減少した。 	○

1 2 改善	パンダと コアラち ゃんから の挑戦状 漢字テス ト(校長と 副校長)	全児童	毎月1 回 7月か ら	<p>【指導者体制】 管理職・学習支援員・スク ールサポートスタッフ担 任</p> <p>【取組みのねらい・目的】 6・7・9・10月は前学 年の漢字復習、11・1 2・1・2月は現学年の漢 字復習をして、月1回確認 テストを行い、基礎学力の 定着を図る。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	全問合格した 児童に毎回賞 状を直接渡 す。 合格するまで 再テストを実 施し、賞状を 渡す。	全員100% 目標。	校長からの表彰者 (1回での合格者) は、学年平均で6 0%であった。字の きれいさも評価した ところ、字が上手に書 ける児童が増加した。	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した漢字を定着 させるために、既習漢 字は日常的に使えるよ うに指導していく必要 がある。 ・学年、学級にばらつ きがあった。 	○
1 3 改善	春休みだ よ! パンダと コアラち ゃんから の挑戦状	全児童	年度当 初	<p>【指導者体制】 管理職・担任</p> <p>【取組みのねらい・目的】 春期休業中に、前学年の復 習を家庭で行わせる。【使 用教材】学力調査問題</p>	正答率80% 以上の児童に 賞状を渡す。	区学力調査で 目標を達成す る。	区学力調査で、目標 の通過率を上回っ た。(参考値)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍対応で区 調査は延期となり参 考値ではあるが目標 を上回ることができ た。 	○
1 4 改善	児童理解 及び学力 向上対策 会議	全児童	4月 7月 10月 1月	<p>【指導者体制】 管理職・学力向上委員長・ 担任</p> <p>【取組みのねらい・目的】 年度当初に、前担任から現 担任へレクチャーを実施。 区調査結果については学 年ごとに会議を実施し、個 の学力状況の分析及び個 の手立てを話し合う。1月 は、上学年から下学年担任 に新年度に向けて、学力向 上に関わるレクチャーを 実施する。</p>	11月の再テ スト。	通過率90% 目標	進級学年の担任か ら下学年の担任へ、 主に学力向上に関 して、始業式までに やっておくべきこ とのレクチャーを 実施した。助言を参 考に区調査実施ま での3ヶ月の具体 的手立てを実践し た。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の状況とその 対策についての情報 交換から、適切な助 言と進行管理が行え た。 	◎

重点的な取組事項－２		教師の指導力向上				
今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力の向上		教師一人一人の指導力の向上(0JTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成)	授業についての保護者評価が教員に対して肯定的である。		ベテラン教員の指導、各教員の向上心、校内研究授業によって全教員の授業力が着実に向上した。	◎
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果		コメント・課題	達成度
資質向上	○都 0JT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成。 ・職層に応じた職務の遂行。	○校長レクチャーの実施(年度当初) ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○学力対策とQUレポートの作成と面接 ○若手教員養成塾の実施	○年度当初の若手教員による転入教員・新規採用教員研修によって若手は自信をつけ、転入者は本校の課題をいち早く理解した。 ○管理職による計画的な学年面接と個人面接及び、日々の指導、助言によって、教員の資質・能力を高めることができた。		・教職員の同僚性が高く、向上心をもって教育活動を行っている。この学校土壌から個々の資質を高めることができている。この学校文化を継続させたい。	◎
指導力・授業力の向上	○足立スタンダードによる授業の基本の確立。 ・「めあて・まとめ・振り返り」100% ・ICTを活用した分かりやすい授業 ・管理職による授業評価 4段階B以上 全員達成	○足立スタンダードの習得 算数・国語 ○学校及び学年共通指導 ○区教科指導専門員の指導・助言 ○授業分析 板書撮影と逐語記録による授業分析 ○管理職の授業評価と指導・助言 随時 ○区小研への全員参加	○管理職による授業評価は平均B以上。初任者は継続的指導が必要。 ○教科指導員からの指導計画と進行管理をコーディネーターとして主幹教諭が担当した。適切かつ効果的な体制で、授業力を高めた。 ○全授業でICTの活用が図れた。		・算数の授業においては、全教員が足立スタンダード型の授業を行うことができている。 ・区教科指導専門員が若手教員に的確かつ継続的な指導を行い、授業力改善に大きな成果をあげた。	◎
英語教育の推進	○英語が大好きな児童を育成する。	○教科書を踏まえた足立区作成単元指導計画及び学習指導案の活用 ○外国語アドバイザー、講師を活用した授業の充実	○担任と外国語アドバイザー、外国語講師との連携が深まり、授業レベルが向上した。		・英語が大好きになっている。外国語講師の奮闘で、学校全体が外国語に慣れ親しむ良い雰囲気となっている。	○

重点的な取組事項－3		心の教育の充実			
今年度の成果目標	達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
児童一人一人の心の成長	Q U数値の向上	学級生活満足群 7月 学校平均 61.8%	学級生活満足群 12月 学校平均 64.8%	次年度も継続して取り組む。	◎
	(全国平均42%)				
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	○Q U調査の2回目の結果での「学級生活満足群」数値割合の向上。 ・百人一首大会の実施 ・17宣言の浸透 ・いじめゼロ	○全校朝会での講話 ○Q U調査の2回実施と分析 ○「リーダー・イン・ミー」教育の日常的な推進 ・共通用語での共通指導の推進 ・サンクスカードの通年実施 ・あおぞら教室での指導	○2回目のQ U調査では、学級満足群に属する児童が3%向上した。全国平均と比較しても20%高い。 ○「道徳」とともに、全学級で「リーダー・イン・ミー」の授業を行い、「心の教育」を推進できた。 ○サンクスカード、信頼貯金で自己肯定感を高めることができた。 ○いじめ防止対策委員会を随時実施し機能させた。「いじめアンケート」を実施するなど年間を通して「いじめ防止」の指導を行った。 ○代表委員会による児童自らの「いじめ防止キャンペーン」を実施した。	・「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として、全教職員で実践した。この研究及び多くの手立てによって確実に児童の非認知スキルを高めることができた。 ・研究を通して、「ポーズ」「ゴール」「信頼貯金」「シナジー」の共通ワードが生まれた。次年度も継続して生かしていく。	◎
無言清掃	○無言清掃の定着	○強化週間の実施	○完璧な無言ではなく、最小限の声かけ等で、落ち着いて安全に清掃に取り組めた。	・静かに黙々と清掃することで、心穏やかに過ごせる学校になっている。	○

重点的な取組事項－４		保育園・幼稚園・中学校との連携			
今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。		幼保中と連携して教育を進め、下記の２項目を達成する。	コロナ禍で制約の多い活動となったが、保育園・幼稚園との連携園とは、連絡会を実施し課題の共有を行った。 花保中学校との連携 信頼関係が深まり多くの情報交換を行うことができた。	今後ともそれぞれとの連携を深めていく。	○
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園との連携	○円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中に小学校生活に慣れる。 ○学びにつながる生活習慣を身に付けさせるために、連携園と共通テーマを決めて実践。	○小学校スタートカリキュラムに基づいた週案簿の作成 ○4月入学時実態調査の公表 ○連携保育園・幼稚園 ・卒園児状況参観（11月） ・校長講話（園保護者対象） ・花保小エリア園長会議の実施	○ブロック全体での活動はできなかったが、本校との連携園とは連絡会議を実施し、課題の共通認識と取り組み内容を確認した。 ○コロナ禍であったが「展覧会」は見学させることができ、小学校進学への期待感を高められた。	・「学びにつながる生活習慣」を身に付けられるように連携保育園と共通認識できた。来年度は共通指導の効果検証を行いたい。	○
花保中学校との連携	○授業力を高めるための研究交流授業の実施 ○見学、交流活動の実施	○児童・生徒の学力定着度の情報交換 ○児童・生徒の状況についての情報交換・調整会議（随時） 中学校見学と部活動体験	○本校の学力向上の成果を、足立区立中学校全進学者の中1区学力調査の結果に反映することができた。 通過率 国語 76.1%（足立区 68.3%）、数学 80%（足立区 73%）英語 80.6%（足立区 79.1%）花保中学校の成績も上昇した。 ○交流では、コロナ禍のために制約が多かったが、行事の見学、6年生の中学校体験、部活動体験などが実施できた。 ○教職員間では、多くの情報交換ができた。	・中2、中3の学力調査結果の推移に着目していく。 ・花保小学校の学力向上の成果を中学校に反映できたので、中学校からの信頼を深めることができた。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

1 学力向上アクションプランについて

○数値目標 令和2年度足立区学習定着度調査 区平均通過率 2教科80.9%

○実施結果 令和2年度足立区学習定着度調査 花保小通過率 2教科81.7%

【課題】通常登校後の日々の時数増、非常事態宣言発令等によって、補習を行う時間が少なく、学力の定着に課題があると考え。

【対策】パワーアップタイムや放課後補習の時間にミニプリント等に取り組みせ、習得・習熟を図る。

【結果】11月の再調査では、全学年、国語、算数の通過率を90%に向上させた。

【全体】令和3年2月に新学年の学力調査を実施し、令和3年の学力調査までに個々の課題について習熟を図る。

【総括】6年連続、区の平均通過率を上回った。令和2年度は、中学1年生の区学力調査でも、本校卒業生は好成绩であった。足立区のボトルネックのひとつ「学力」において中学校によりよい「学力」のバトンタッチができたことを嬉しく思う。

2 教師の指導力向上について

○成果目標 教師一人一人の指導力の向上

○達成基準 教師一人一人の指導力の向上 (OJTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成)

東京都OJTガイドラインで求められている目標を達成するために、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には次年度もOJTも含めて継続していく。

3 心の教育の充実について

○成果目標 児童一人一人の心の成長

○達成基準 QU数値の向上

○実施結果 学級生活満足群の学年集計 令和2年12月実施(2回目)

1年生72%(全国42%) 2年生64%(全国42%) 3年生66%(全国42%) 4年生45%(全国43%) 5年生64%(全国43%) 6年生78%(全国43%)

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。一層の心の教育を推進する。

4 保育園・幼稚園・中学校との連携

○成果目標 保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

○実施結果 保育園・幼稚園との連携

コロナ禍の対応のため、直接交流は制約されたが、本校が連携する5つの幼稚園と保育園で連絡会議が実施でき、その後も情報交換や職員交流ができた。

○実施結果 花保中学校との連携

コロナ禍の対応のため、活動の制約はあったが、可能な限り職員が交流し互いの学校状況を把握できた。花保小学校卒業生の学力調査の結果が良かったことから、これまでの連携の成果として互いに自信を深めることができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ禍に翻弄された1年間でした。保護者の皆様には休業や分散登校、行事の制約等で大変ご苦勞をおかけしました。しかし保護者の皆様には、本校の教育方針や教育活動、突然の行事や公開の変更についてもご理解いただき、常に冷静かつ辛抱強く対応していただきました。心から感謝しています。

このように「大人としてのお手本」を見せてくださっている姿が常に花保小学校にあることが、児童の落ち着きにつながり、本校の目に見えない校風になっていることを嬉しく思います。私たち教職員も日常の学校生活や行事で、感染防止対策を万全にしながら実施できるように工夫してきました。子どもたちにとって、我慢の1年だったと思いますが、心に残る思い出も多くできたのではないかと思います。

本校はまだまだ成長できる学校です。これからも、一人一人の子どもに寄り添い、個々のよさと可能性を認め、伸ばさせることをすべての教育活動の根幹とし、豊かな人間性の育成のために努力して参ります。また、子どもが分かる楽しさと、できる喜びを十分に感じる授業を目指してまいります。

これからも保護者の皆様、地域の皆様と一緒に子どもたちの成長を考え合い、三者が一体となった教育を進めたいと考えています。そして、保護者の皆様には、「花保小学校に通わせていることに誇りがもてる学校」、在校生にとっては学校生活に希望をもち「わくわくする学校」、卒業生にとっては「花保小学校を卒業したことに誇りがもてる学校」にしていきます。令和3年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校での生活規律や学習規律の徹底を教職員全員で取り組み、思いやりのある心を育て、学力をしっかりと身につけさせるように真剣に努力しています。

具体的には、

- ① 「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する。そして責任をとる。」ことの大切さの呼びかけ。
- ② 朝会では、指示や号令なく整列させ、表彰の機会を多くする。
- ③ 一斉放送の際に全児童が全行動を停止して放送を聞く態度の確立。
- ④ 廊下歩行、右側歩行の徹底 「廊下はね、走っちゃだめだめ 花ほっ子」。
- ⑤ 自分で考えて学校を綺麗にする「無言清掃」。
- ⑥ 「QU調査」を年2回実施し、あたたかな人間関係づくりを行う。
- ⑦ 人のために役立つ喜びを実感させる「サンクスイヤー」。
- ⑧ 思いやりのある言葉「ふわふわ言葉」の奨励と「ちくちく言葉」の撲滅。
- ⑨ 教員も子どもたち同士も「おまえ」とは言わない。
- ⑩ 名前を呼ぶときは、教員も子どもたち同士も基本的に「さん」付けで。
- ⑪ 自己肯定感を高め、生きる力を育む「リーダー・イン・ミー」の推進。
- ⑫ みんなで考えたわたしたちの学校目標と「17宣言（いいな宣言）」に基づく行動。
- ⑬ 朝の「あいさつ運動」と子ども同士のあいさつの奨励。
- ⑭ 学習により集中させるための花保教室環境スタンダードの全教室展開（ユニバーサルデザイン）。
- ⑮ 学習にふさわしい服装や身だしなみ。
- ⑯ 学習に必要なものだけを机の上に用意する約束 えんぴつ3本と消しゴム1つ。
- ⑰ 朝のスタートを円滑にするための登校時間の設定 8時から8時10分まで。
- ⑱ 区の学力調査結果の分析と基礎学力定着のための復習テスト。
- ⑲ 帰りの会後に行う補習の実施。
- ⑳ 家庭学習の充実。

など多くのことを取り組み、数値では測れない全体としての学校力も向上していると思います。さらによりよい学校にするために令和3年度の「花保小学校」を構想していきます。

